

豊かな国際性と
コミュニケーション力を育もう

那須塩原の英語教育

世界共通語である「英語」の力を身につけてもらうことは、子どもたちの将来と市の発展にも非常に重要です。そこで、市では平成26年度に英語教育推進室を創設し、独自の英語教育を進めています。

独自の取り組み



小中一貫英語教育
カリキュラムの作成

9年間を通して全小・中学校の均一な指導が可能に。

【カリキュラムの特徴】

- 日本語・英語版を作成
- コミュニケーション活動を重視
- ALTによるデモンストラーションを多用
- 明確な評価基準を設定



ALTの全校常駐配置

日常的に英語を使うよう34人のALTを市内全学校に配置。

【ALTの主な活動】

- グローバル コミュニケーション デイ
- 放課後活動への参加
- 地域住民への英会話教室
- ALTフェスティバルの開催



中学生海外交流

姉妹都市リンツ市と中学生の相互派遣を実施。

【海外派遣研修】

市内中学2年生を毎年オーストラリアへ派遣しています。
【ホームステイ受け入れ】リンツ市のAuhof校から中学生を受け入れています。



英語教育推進
教師の配置

各学校へ推進教師を派遣し、担任やALTをサポート。

【推進教師の主な業務】

- カリキュラム利用の状況など授業担当教師と情報交換する
- 授業担当教師とALTの仲介として通訳のような役割を果たす

市内各校に常駐するALTの出身国分布



Know 知る

特集 英語教育

社会のグローバル化が急速に進む現代において、教育現場でも急務となる国際化への対応。そんな中、本市では国の施策に先駆け、子どもたちの“国際性”を育む多様な取り組みが始まっています。英語教育に懸ける思いを教育長に聞きました。

インタビュー Interview



大宮司 敏夫 教育長

英語教育の必要性

いま世界では、人やモノの行き来が盛んに行われ、国境がなくなってきたとも言われています。そのため、これからの時代は世界の多様な人々とコミュニケーションをとる必要が出てくるでしょう。異なる国の人同士が意思疎通するには、共通の言葉が必要。その言葉が、現代では英語です。だから、世界の人と対話するためのツールとして、子どもたちへの英語教育が大切だと考えています。

子どもたちの成長を実感

これまで市内の小・中学校には日本人の先生しかいなかったため、授業で英語を習っても、授業以外では英語を使う機会がなく、話す力が伸びにくい状況でした。それなら、外国人の先生がいつも学校にいる環境を作れば良いのではと考え、ALTの全校配置に踏み切りました。国の施策に先駆けて平成26年に全

校配置を始めてから5年近くが経過し、子どもたちの変化を実感しています。現場の先生からは、「子どもたちが積極的に自分の意見を英語で話せるようになった」との声を多く聞きます。修学旅行で京都を訪れた際、出会った外国人に自ら話しかけるなど、失敗を恐れずに英語を話す姿が見受けられました。

こうした成果はデータにも表れ、中学3年生を対象とした英語習得レベルをはかる英検1B Aにおいて本市は51・8%が英検3級レベル以上と判定されました。県平均の39%と比較しても、本市の英語教育の成果が実を結んでいると思います。

未来を見据えた人材育成

今後、身に付けた英語力を生かし世界へと活躍の場を広げてほしいです。多様なグローバル社会において、円滑なコミュニケーションを図るためにはお互いを知ることが何より不可欠。その際に大切なのが、自分のアイデンティティをしっかり持つこと。なぜなら、自分自身のことについて理解していなければ、相手に自分のことを知ってもらうことはできないからです。子どもたちには、外への関心と同時に自分の足元にも目を向け、世界へ羽ばたいてほしいです。